

## 平成29年度 生石保育園事業報告

### 1. 概要

#### ①運営報告

- 12月に第三者評価を受審しました。事前に勉強を行うことで職員間の学びにはつながりましたが、保育計画の連続性や記録等の不十分な点が課題として見えました。今後、組織として改善に取り組む必要があります。また、基本である園内での情報共有などにも課題が見られたため、雇用形態に関わらず各々の責任を果たしながら職務を行える体制づくりが必要です。
- 就職セミナーに出向いたり、養成校の1年生全員の見学実習を受け入れたりするなど園の保育について知らせる活動を行い保育士確保にも努めていきました。
- 地域に向けても園の情報を発信するため地域の広報誌に保育園の情報を掲載したりパンフレットの見直しも行ったりました。
- 平成29年度末に正規保育士2名非常勤保育士2名の退職がありました。正規3名の雇用と育休復帰1名で保育士の数は確保でき保育の質の向上に向けて年度末に研修及び引き継ぎを行いました。

②定員 90名、定数外 15名→合計105名

③事業日数 362日 (うち休日保育 69日実施)

#### ④開園時間

平日	7:00	～	20:00
土曜日	7:00	～	20:00
休日	8:00	～	18:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00～8:30  
通常保育 8:30～18:00【標準時間認定】  
8:30～16:30【短時間認定】  
延長保育 18:00～20:00

#### ⑥職員数

園長 1名、主任保育士1名、保育士20名 (うちパート保育士10名) 調理員 5名  
(パート調理員 3名) パート用務員 1名 (障がい者雇用) 嘱託医 (内科・歯科) 各1名  
(年各2回健診)

### 2. 保育運営

#### ①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で、成長するこ

とが望ましいと考えます。

- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

## ②保育方針

- 子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる保育の場を提供する。
- 地域における子育て支援のため、保育に関する相談や助言の役割を果たす。

## ③保育目標

1. 心身共に健康で元気な子
2. 意欲のある子
3. 思いやりのある子
4. 自分を表現できる子

## ④クラス体制

0.1歳児	もも組	20名	保育士	4名
2歳児	ぶどう組	18名	保育士	3名
3歳児	みかん組	22名	保育士	2名
4歳児	りんご組	20名	保育士	1名
5歳児	めろん組	25名	保育士	1名
合計園児数		105名	保育士	11名
主任保育士				1名
子育て支援担当保育士				1名（パートタイム保育士）
延長・休日保育担当保育士				4名（パートタイム保育士）
加配保育士				2名（パートタイム保育士）

## ⑤保育内容

- 乳児クラスは一日の流れをもとに、子どもたちがよく遊び、よく食べて、よく眠るという生活のリズムが身につくように活動を見直しました。食事では保育士1人が、子ども3人を一緒に食べさせるようにし、一口量を知らせ、食事への意欲を引き出すように関わりました。また、子どもの目線になって話しかけるなど保育士と子どもが向かい合って接するように保育を行っていきましたが、職員によって意識にバラつきも見られ子どもの言葉を待つことの大切さや応答的なやりとりを行うように現場において、確認することが必要です。
- 子どもが自ら考え、選択し行動することを目標としてきましたが、カリキュラムを行うにあたり保育士主導の関わりとなり子どもを急がせる場面も見られたため、カリキュラムの内容の見直しや準備を十分に行うなど課題は残っています。発達に沿った遊びを行うように努め

ていましたが、まずは子どもの発達を職員間で再確認することが必要です。

- 石井式漢字教育を通して、毎日漢字を聞いたり読んだりすることで、絵本に親しんだり、学ぶ意欲に繋がったりしています。しかし、石井式漢字教育の意図や内容理解など職員の意識統一が不十分であったため、素話のスピードや抑揚のつけ方などより子どもの興味を引きだすような進め方の工夫が必要です。
- 音楽あそびを週一回行い、保育士や友だちと一緒に音楽に触れ、その楽しさをわかちあうことができました。器楽曲について、曲の設定や構成の組み方などについて学んでいく必要があります。
- 毎朝「意味ある運動」でしっかりと身体を動かし、前日の脳のストレスを発散することで、子どもたちが落ち着いて一日の保育活動に取り組むことができるように努めました。しかし、体育指導に関しては職員の立ち位置や補助の方法など全職員が共通認識で行っていくために、専門講師による職員への体育指導の機会を設ける必要があります。
- 旬の食材に触れながらの調理活動、野菜の栽培など各年齢に応じた食育活動の中で子どもたちは興味、関心をもち取り組むことができました。また、食育パネルを使って子どもたちに食事のマナーや早寝・早起き・朝ごはんの大切さを分かりやすく知らせることができたため、引き続き、取り組んでいきます。

#### ⑥家庭との連携

クラス懇談会（年3回）・個人懇談会（年1回）・就学前個人懇談会（年1回）

保育参観（年1回）・家庭訪問（新入園児のみ）・保育参加（年1回）

- クラス懇談では、園の理念や方針、保育目標や各クラスの保育について具体的に伝え、保護者との意見交換を行うなどしました。個別懇談では、個々の子どもの育ちについて共通理解をしています。
- 卒園式後の日程を利用して新入園児親子対象に親子で保育園体験ができるプレ保育を実施しています。入園までの間に一家庭、二日程度保育園に来園していただき、園生活を体験してもらいました。保育園での1日の流れを体験し理解してもらうことで、保護者の方が子どもを安心して預けられるように取り組みました。
- 卒園児を対象に年1回、保育園でふれあい遊び交流会を実施し、卒園後の子どもや保護者が相談できる場を設定しました。今年は1件相談があり、主任が窓口となり対応しました。

#### ⑦人材育成

- 保育の一日の流れやカリキュラムに基づいて保育を行い、園長・主任を中心に確認を行い定着に努めましたがまだ不十分な所もあり、園長・主任・リーダー保育士を中心に確認していく必要があります。職員間の意見交換ができる話し合いの場を設け、それぞれが意見を出し合い園全体で、保育や子どもの育ちについて共通認識を持ったうえで保育にあたる必要があります。
- 第三者評価の受審に伴い園全体の見直しを行いました。それぞれの職員間での意識にも差異があることもわかり、保育や業務に対しての説明が不十分でした。雇用形態に関わらず園の戦力とし

て育てていくために一人ずつ丁寧に園長・主任・リーダー保育士が中心となり指導を行う必要があります。

- 個別研修計画をもとに園外の研修を受講しました。(主任保育士研修・0～5歳児担当研修・中堅保育士研修・障害児保育士研修・人権研修・給食担当者研修、虐待研修)
- 園内の研修を受講しました。(救命救急、アレルギー対応、感染症対応、不審者訓練、石井式漢字教育)研修後、係や主任・リーダー職員が中心となり復習し、継続できるよう取り組みました。
- 絵画・造形に関する基本的な知識や技術習得の研修に参加しました。園内の飾りつけ方や季節の自然物を使った製作の指導方法について学び、現場に活かすことができました。今後も定期的に研修を実践していきます。

#### ⑧地域の実態に対応した事業

##### ●子育て支援について

子育て支援「さくらんぼ広場」では、担当職員を配置することにより、カリキュラムを立てて実践することができ、登録者数も36組となりました。利用者は幼稚園希望の御家庭も多く、平成30年度は3組の入園となりました。国の保育料無償化により、入園状況に変化が見られるかもしれません。保育園の活動や保育内容を知ってもらおうと共に地域への情報発信も行う必要があります。

##### ●小学校との連携・接続について

年長児と小学校1年生の交流会に参加し、秋の自然物に触れながら交流を楽しみました。学校行事の見学も行い、小学校を知る機会を持ちました。

##### ●近隣の小学校で授業参観や、年2回の幼保小連絡協議会に参加し、情報交換を行い、保育園の取り組みを伝え、円滑な接続と連携に取り組みました。

##### ●就学後の相談やあそび場の提供として里帰り交流会を卒園児対象に年間3回行いました。

##### ●「生石地区の町づくり実行委員会」の福祉部と広報部に所属し、地域の中での保育園の役割を伝えると共に広報誌などで保育園の活動を掲載してもらいました。

##### ●地域の高齢者との交流を継続して行います。(子どもの日交流会、敬老交流会、運動会、生石地区文化祭参加、独居老人の集い)また、高齢者施設(幸富壮、ミネルワ)との交流会も年間3回年長児が行いました。

##### ●地域のみかん農家の方に協力いただき、出荷作業の見学に行きました。今後も地域にある社会資源を活用し様々な社会見学の場を設けていきたいと思います。

#### ⑨苦情処理

##### ●第三者委員(2名)を設置し、苦情窓口担当者は主任、解決責任者は園長とします。意見箱を設置し、保護者からの意見や要望について引き続き収集に努めます。

##### ●保護者からの意見や要望に対しては、昼礼で周知し、改善計画を立てて対応して行きました。保護者の駐車場利用について地域住民からの苦情に対しては貼り出しや手紙の配布などをして呼びかけを行いました。

#### ⑩ リスクマネジメント

- 災害時の避難場所は玄関に掲示して家庭に周知しています。災害時の連絡方法や対策については、入園面接時や5月のクラス懇談会において文書で保護者に伝えました。
- 安全係を中心に危機管理マニュアルの見直しを3月に行い、職員会で全職員に周知しました。また、備蓄品リストに沿って、安全係・調理員を中心に確認を行うとともに補充分を買い足しました。避難リュックの確認は毎月月初めに各クラスの担任が行いました。調理室前のテラスに備蓄品倉庫を設置しました。
- 松山市のMAC ネットシステム（情報配信システム）を利用し、災害時や危機管理、感染症等子どもの安全に係る事項について迅速な情報発信を行いました。
- 全園児での高台避難訓練（生石八幡神社・生石小学校）を年2回行いました。
  
- 保健衛生や感染症などマニュアル類の見直しは主任が中心となり行い、園内研修などで職員に周知、確認をしました。嘔吐処理については感染症が流行する前の11月に園内研修を実施し、手順の確認を行い感染拡大予防に努めました。
- 毎日の安全点検と毎月一回、松山市のチェックリストに基づき危険個所の定期点検や、松山市の施設点検マニュアルに基づく施設点検、業者による遊具点検は異常ありませんでした。
- ヒヤリ・ハット事例の発生のたびに書き溜めておき、具体的な予防方法を昼礼時に確認をしていますが、収集にとどまり評価分析までに至っていないため、今後は事故を未然に防ぐためにも発生の時間や場所などの統計を取り分析する必要があります。

#### ⑪ 休日保育

- 年間実績利用者人数20名（うち平日は他施設・事業所を利用する実利用児童数7人）  
年間延べ利用子ども数515名でした。